

Pan-Report™

発行; PanRolling Inc.

年間購読料 63,000 円

無断転用禁止

#1001, Duo, 7-21-3, Nishishinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan, 160-0023 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-21-3-1001 fax 03-5386-7393

《日本円の先行き》1/3

為替

ラリー・ウィリアムズ
なりたひろゆき(訳)

日本国内に限らず、世界各地の国際ビジネスマンは日本円の今後について興味を持っている。蔓延している大量の情報をベースに各自が円の先行きを占っているが、結局、分析をしっかりと行うことを怠り、勘に頼ってしまう傾向が強いのではないだろうか。

今月は、この先、2月の初めまで日本円が弱くなるか、または、これ以上強くならないという予測を明確に示している分析ツールを紹介しよう。

どのようにして、この予測を立てたのかという疑問を持つ方も多いただろうが、日本円の過去の動向を分析した結果をもとに、この先、どのように日本円が動くのか判断した。もちろん、過去の動き通りに、将来、日本円が動くとは限らない。しかし、このツールはドライブに必要な地図(ナビ)の役目を十分果たしてくれる。

分析ツールの一つ目はシーズナル(季節)サイクルパターンである。各商品、証券は毎年同じ頃に動き出す傾向がある。このパターンは日本円にも存在している。通貨の場合、米ドルに対して通貨毎にヘッジニーズがあり、機関投資家はある時期にそのアクションを起こしている。ここで季節という言葉を使ったが、田植えの時期があり、そして、収穫の時期があるように、輸入業者も輸出業者もそれぞれのニーズにあったヘッジをそれぞれの時期に行っている。

日本円のチャートを見て頂きたい。ここでは、CMEに上場している円通貨先物を使っている。その理由は、27年にという長い間、円通貨先物は取引されていて、分析に必要なたくさんのデータがあるためだ。チャートには円通貨先物の週足データとその下にシーズナルトレンドインデックスを載せてある。このインデックスは、あくまで、タイミングをあらわしているだけで、そのトレンドの強弱を示していない。このインデックスを見る限り、日本円は年初に弱く、下降トレンドを形成するケースが多いと示している。

ところで、このシーズナルトレンドインデックスだが、1973年に出版した私の著書の中でふれている。30年も前に発見した商品におけるサイクルパターンインデックスだが、2001年から2004年の円市場を見てみると毎年、同じような価格変動パターンを起こしている。2005年も、また、同じような動きをすると予測するのが自然だろう。

監修 / パンローリング TEL 03-5386-7391

<http://www.panrolling.com/>E-mail info@panrolling.com

Pan-Report™

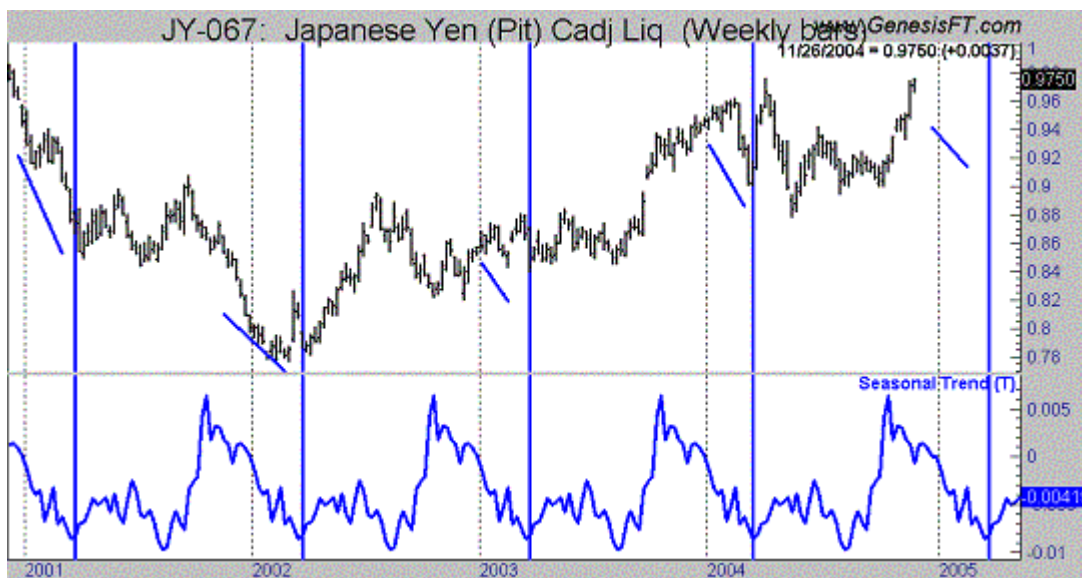
発行; PanRolling Inc.
年間購読料 63,000 円
無断転用禁止

#1001, Duo, 7-21-3, Nishishinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan, 160-0023 〒 160-0023 東京都新宿区西新宿 7-21-3-1001 fax03-5386-7393

《日本円の先行き》 2/3

為替

ラリー・ウィリアムズ
なりたひろゆき（訳）



（チャート：ジェネシス社、トレードナビゲーター）

しかし、シーズンインデックスのみでトレードするのは少々リスクを感じる。特に、私のような相場で生計を立てているトレーダーには、何か別の分析ツールが必要と感じている。そこで、次に紹介するのが、機関投資家をはじめとする大手企業、それに、大手金融機関の通貨ヘッジ動向を分析するのに適しているCOTレポートの使い方を説明しよう。

アメリカでは、大玉を扱うトレーダーや機関投資家のポジションを公表することが法で定められている。今は週に一回、このCOTレポートが発表になっている。このレポートを分析することでスマートマネーといわれている機関投資家動向が把握できる。もちろん、彼らの動きだけが全てではないが、市場の60%を制していると言われている機関投資家が極端な玉を立てたときには注意が必要だ。

このレポートを書いている11月末の時点でCOTのレポートを分析する限り、スマートマネーが日本円のヘッジ売りを積み増していることがわかる。今までの動きから、近い内に日本円が下落するだろうと予測できる。

監修 / パンローリング TEL 03-5386-7391

<http://www.panrolling.com/>

E-mail info@panrolling.com

Pan-Report™

発行; PanRolling Inc.

年間購読料 63,000 円

無断転用禁止

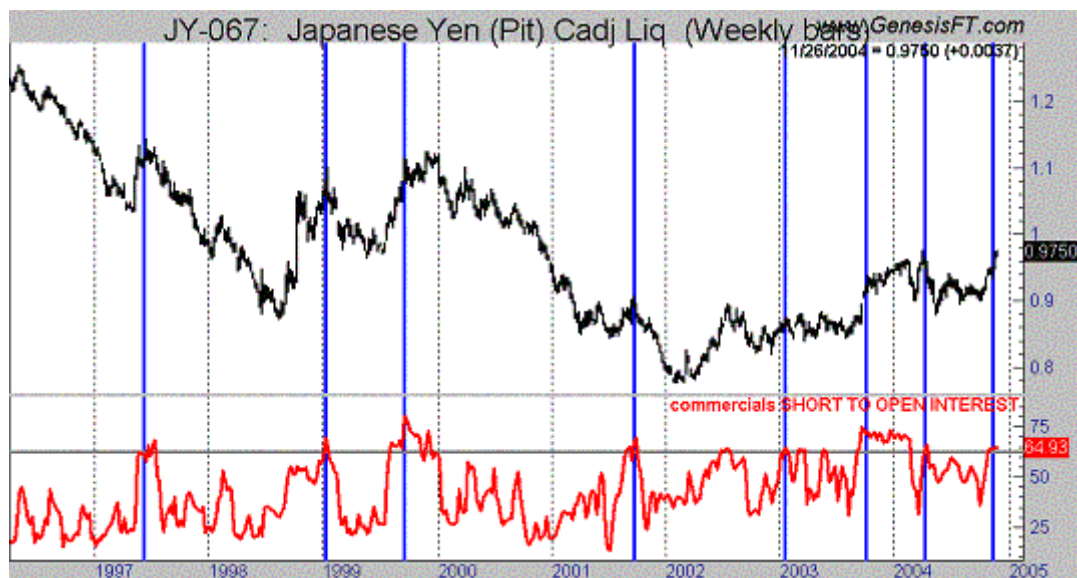
#1001, Duo, 7-21-3, Nishishinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan, 160-0023 〒 160-0023 東京都新宿区西新宿 7-21-3-1001 fax03-5386-7393

《日本円の先行き》 3/3

為替

ラリー・ウィリアムズ
なりたひろゆき（訳）

ここで私のCOTレポートの分析方法についてふれてみるが、取組高に対してスマートマネーの売り持ちがどれぐらいの比率なのか注目している。55%を超えてくると円の天井に近いといえる。



（チャート：ジェネシス社、トレードナビゲーター）

チャート上には55%を超えた最大の値の上に縦線を描いてみた。縦線の付近で日本円がトップを打っているか、その後、価格が上昇から横ばいへ変化していることが多い。このチャートをよく研究して頂きたい。このレポートを書いている11月末の時点で、取組高に対する機関投資家の売り玉が占める割合は64%になっている。また、最初に説明したシーズナルパターンと併せて分析すると日本円はこれから徐々に下げに転じることが予測できる。一つのツールに頼るのではなく、二つのツールから導き出された分析結果である。

監修 / パンローリング TEL 03-5386-7391

<http://www.panrolling.com/>E-mail info@panrolling.com